

奈良県平成緊急内水対策事業の整備状況

令和7年1月28日
奈良県

3-1. 奈良県平成緊急内水対策事業の概要

【奈良県平成緊急内水対策事業】

○内水による家屋の床上・床下浸水被害解消のため、100年に1度の大雨にも耐えるべく必要な貯留施設等を適地に整備する事業

【事業進捗状況】

- 平成30年 奈良県平成緊急内水対策事業を開始(適地選考委員会で 19地区 21箇所 を選定)
- 令和元年 100年に1回の確率で発生しうる規模の降雨に対する対策の検討を開始(適地選考委員会で 19地区 39箇所 を選定)
⇒ 14地区21箇所事業化が行われ、そのうち、5地区 6箇所が完成(令和6年12月末時点)

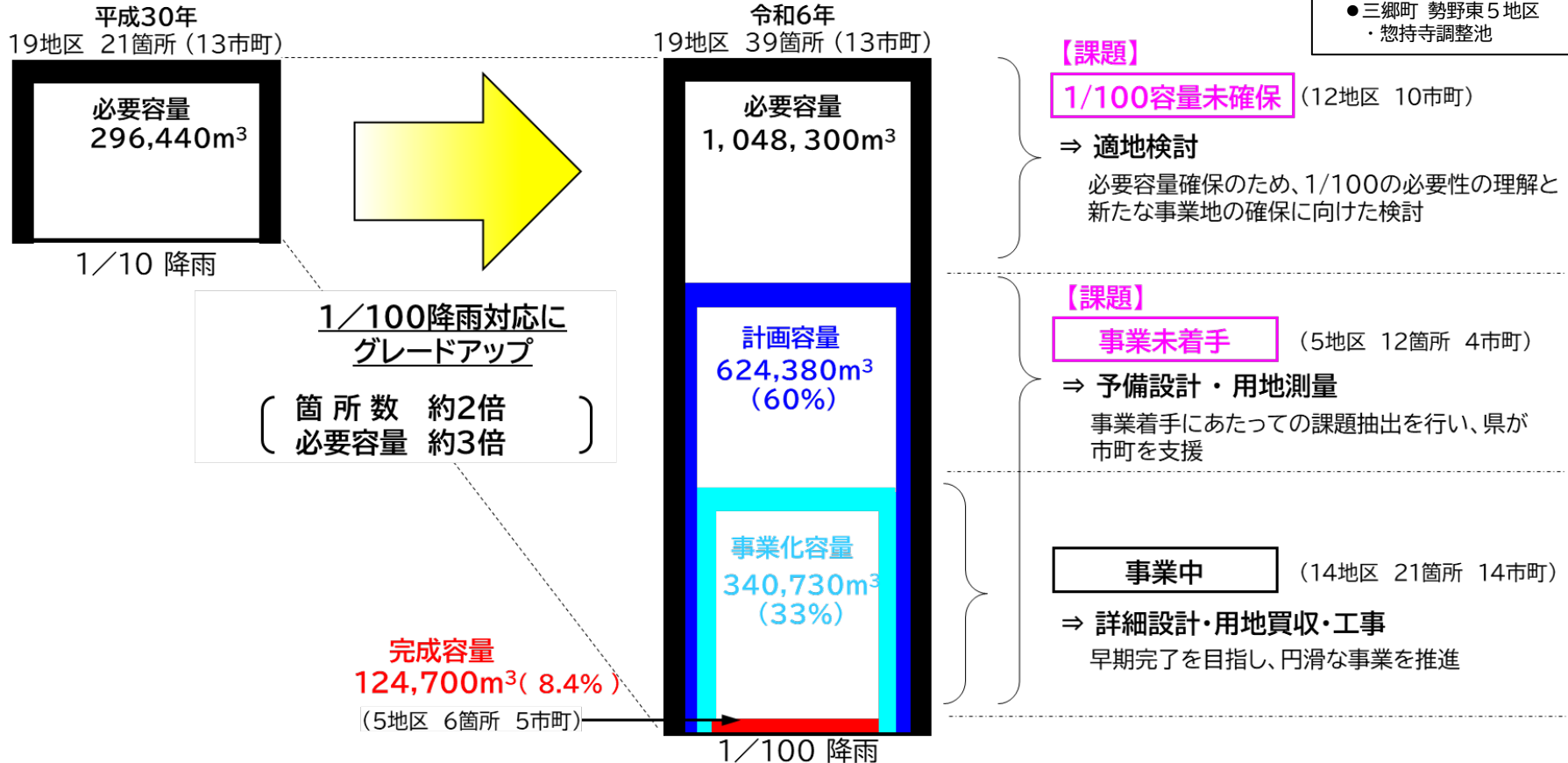
これまでに完成した施設

- 大和郡山市 北郡山地区
・小川町調整池
- 天理市 庵治町地区
・庵治池
- 御所市 今住地区
・今住流域貯留施設
- 田原本町 阪手地区
・社会福祉協議会駐車場等雨水貯留施設
・旧県水資材置場雨水貯留施設
- 三郷町 勢野東5地区
・惣持寺調整池

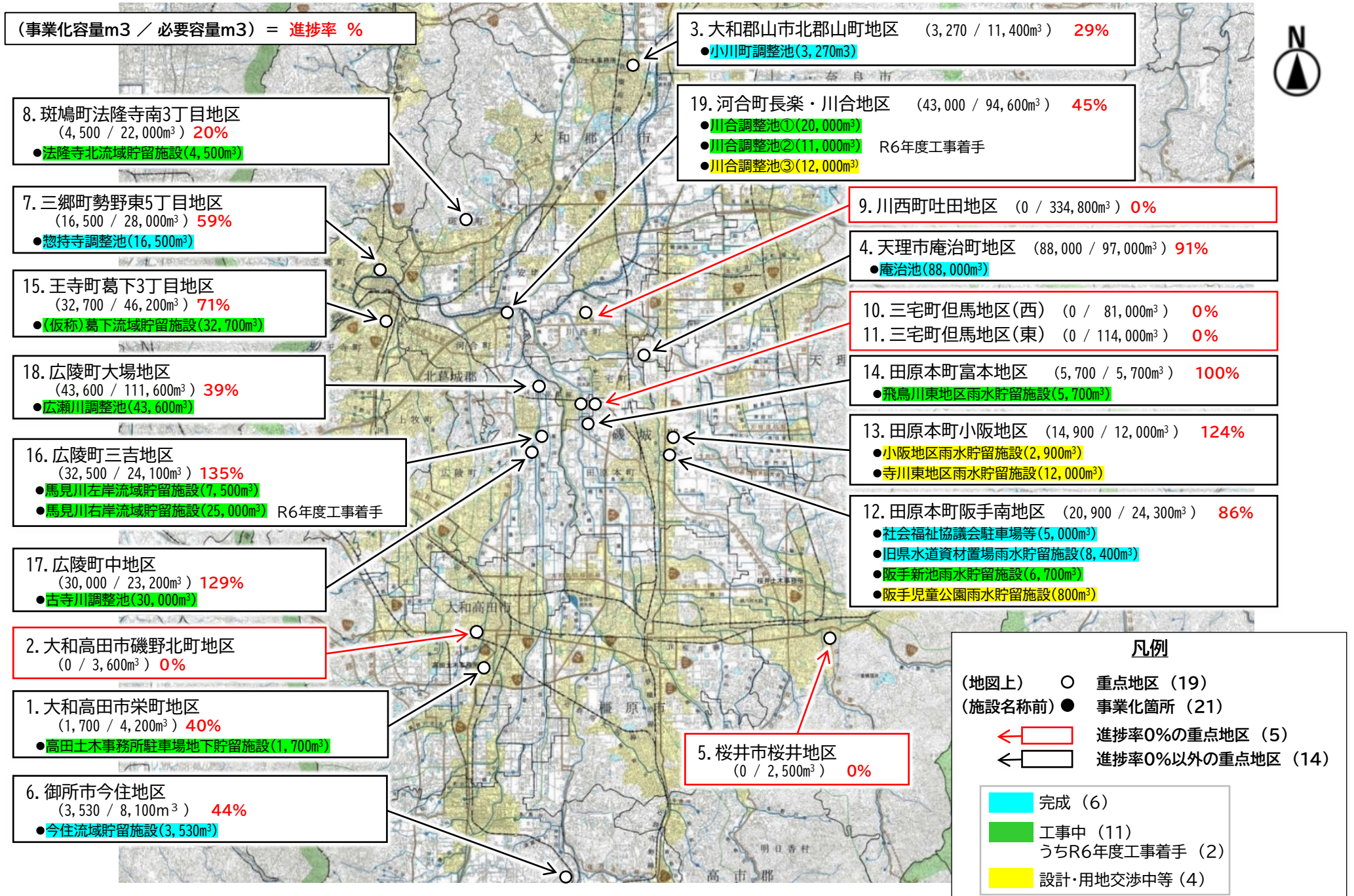
【事業の推進に向けて】

- 事業進捗の「見える化」を図り、地域の理解を促進(各地区における進捗状況の見える化、整備効果の共有)
- 県が積極的に市町を支援し、事業進捗を後押し(技術的支援や財政的支援)

【進捗状況(全体)】



3-2. 奈良県平成緊急内水対策事業 位置図



3-3. 奈良県平成緊急内水対策事業の進捗状況

- 前回の大和川流域水害対策協議会(R6.1)以降、庵治池(天理市庵治町地区)と惣持寺調整池(三郷町勢野東5地区)が完成(計6箇所が完成)
- 現在、7市町(大和高田市、天理市、三郷町、斑鳩町、田原本町、王寺町、広陵町)の10地区15箇所です貯留施設の整備を実施中

天理市 庵治町地区

R6.5完成

計画容量 88,000m³



庵治池

三郷町 勢野東5地区

R6.9完成


計画容量 16,500m³



惣持寺調整池

王寺町 葛下3地区

計画容量 32,700m³



R6年度完成予定
(仮称)葛下流域貯留施設

河合町 長楽・川合地区


計画容量 20,000m³



R8年度完成予定
川合調整池①

大和高田市 栄町地区

計画容量 1,700m³



R7年度完成予定
高田土木事務所駐車場地下貯留施設

斑鳩町 法隆寺南3地区


計画容量 4,500m³



R7年度完成予定
法隆寺北流域貯留施設

田原本町 富本地区

計画容量 5,700m³



R8年度完成予定
飛鳥川東地区雨水貯留施設

広陵町 中地区

計画容量 30,000m³



R7年度完成予定
古寺川調整池

R6.12末時点

市町名	重点地区名	施設名	事業化容量 (供用済を含む)		計画容量 m ³	必要容量 1/100	進捗率		進捗状況		
			施設容量 m ³	地区容量 m ³			計画容量に 対する割合 %	必要容量に 対する割合 %	設計・用 地交渉中	工事中	完成
大和高田市	①栄町	高田土木事務所駐車場地下貯留施設	1,700	1,700	10,200	4,200	17%	40%		○	
	②磯野北町			0	2,000	3,600	0%	0%			
大和郡山市	③北郡山町	小川町調整池	3,200	3,200	3,800	11,400	84%	28%			○
天理市	④庵治町	庵治池	88,000	88,000	88,000	97,000	100%	91%			○
桜井市	⑤桜井			0	14,100	2,500	0%	0%			
御所市	⑥今住	今住流域貯留施設	3,530	3,530	3,530	8,100	100%	44%			○
三郷町	⑦勢野東5	惣持寺調整池	16,500	16,500	16,500	28,000	100%	59%			○
斑鳩町	⑧法隆寺南3	法隆寺北流域貯留施設	4,500	4,500	4,500	22,000	100%	20%		○	
川西市	⑨吐田			0	54,000	334,800	0%	0%			
三宅町	⑩但馬(西)			0	35,800	81,000	0%	0%			
	⑪但馬(東)			0	71,200	114,000	0%	0%			
田原本町	⑫阪手南	社会福祉協議会駐車場等雨水貯留施設	5,000								○
		旧県水資材置場雨水貯留施設	8,400	20,900	13,750	24,300	152%	86%		○	○
		阪手新池雨水貯留施設	6,700								○
		阪手児童公園雨水貯留施設	800								○
⑬小阪	小阪地区雨水貯留施設	2,900	14,900	19,900	12,000	75%	124%		○		
	寺川東地区雨水貯留施設	12,000								○	
⑭富本	飛鳥川東地区雨水貯留施設	5,700	5,700	5,700	5,700	100%	100%		○		
王寺町	⑮葛下3	(仮称)葛下流域貯留施設	32,700	32,700	32,700	46,200	100%	71%		○	
広陵町	⑯三吉	馬見川左岸流域貯留施設	7,500	32,500	32,500	24,100	100%	135%		○	○
		馬見川右岸流域貯留施設	25,000								○
	⑰中	古寺川調整池	30,000	30,000	30,300	23,200	99%	129%		○	
⑱大場	広瀬川調整池	43,600	43,600	113,000	111,600	39%	39%		○		
河合町	⑳長楽・川合	川合右岸農地	20,000	43,000	72,900	94,600	59%	45%		○	○
		川合左岸農地1	11,000								○
		川合左岸農地2	12,000								○
13市町	19地区			340,730	624,380	1,048,300			4箇所	11箇所	6箇所

凡例

完成済

施工中

凡例

25%未満

50%未満

100%未満

100%以上

3-4. 取り組み事例の紹介

天理市 庵治池(おうじいけ)

令和6年5月完成

県内初

治水専用ため池が誕生！ため池を活用した新たなスキーム

農家

- 吉野川分水による農業用水の確保
- 受益地(農地)の減少
- ため池の維持管理の負担感の増大

話し合い



行政

- 天理市議会水害対策委員会において浸水対策を議題に協議を実施
- 二階堂校区浸水対策プロジェクト会議(天理市、住民、奈良県)を通じ、庵治町での浸水対策を議論・検討
→ プロジェクト会議の委員である**庵治町自治会**から**庵治池の活用**の提案
提案を受け、奈良県が治水効果の検証を行い、その効果を確認

新たなスキーム

天理市がため池の無償借地を受け、治水専用のため池として活用へ

- ・「ため池所有者(維持管理が負担になっている)」と「自治体(治水機能を確認したい)」の思いがマッチング
- ・市と地元が連携した浸水被害の解消に向けて、農業用ため池から治水ため池への新たな取組

【位置図】

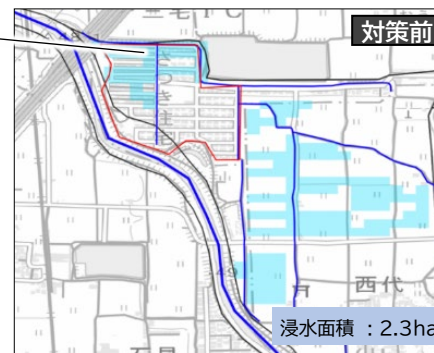


【整備効果】

10年に1回程度起きる大雨(10年確率降雨規模)において、浸水被害が解消



平成29年 台風10号による浸水被害後の状況(床上1件、床下77件)



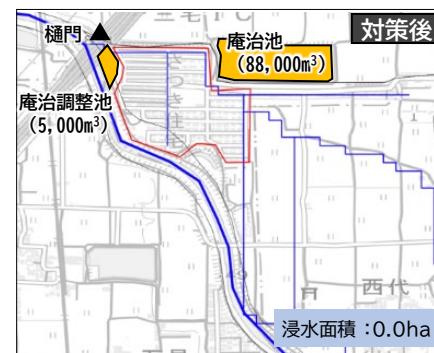
(平常時)

- 池の水は、底樋管(フラップゲート)から北和排水路へ自然排水

(洪水時)

- 寺川の水位が上昇すると合流部樋門(フラップゲート)が閉まる。
- 北和排水路の水位が上昇すると庵治池の流出口(底樋)のフラップゲートが閉まる
- 北和排水路の水位が余水吐底高まで上昇すると余水吐部から庵治池に内水が自然流入(最大貯水量 88,000m³)

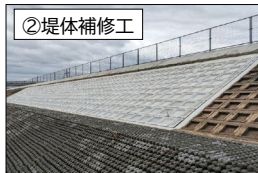
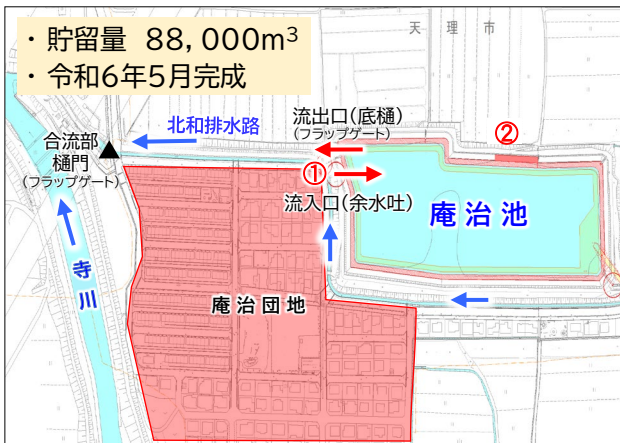
対策後



(洪水後)

- 寺川の水位が低下すると合流部樋門(フラップゲート)が開き、北和排水路の水が寺川へ自然排水
- 北和排水路の水位が低下すると庵治池の流出口(底樋)から池に貯まった内水が自然排水され、池の水位が低下

【施設の概要】



▶ 大規模な地下貯留施設が完成しました！

【位置図】



【整備効果】

平成29年10月の台風21号(雨量)で、惣持寺地区で発生する浸水被害が解消



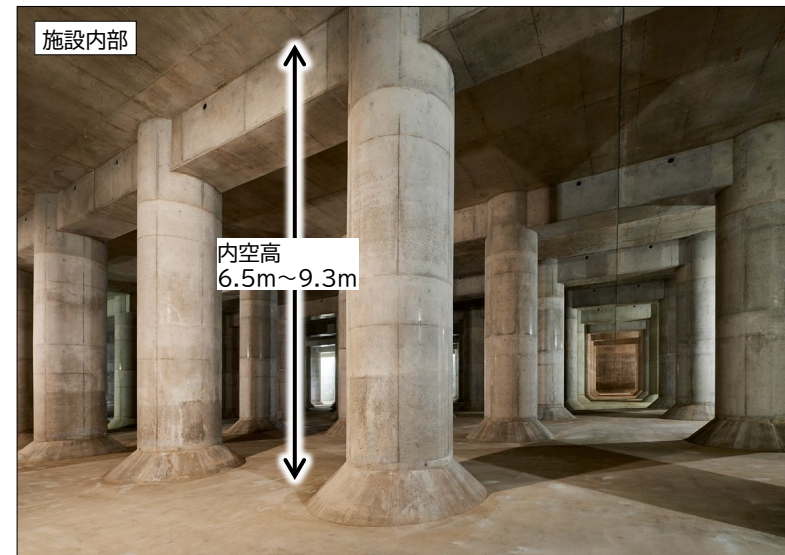
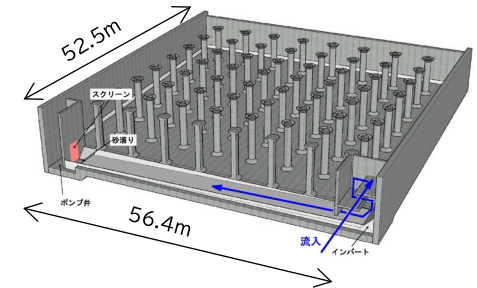
平成29年 台風10号による浸水被害の状況

- ▶ 奈良県生駒郡三郷町勢野東（惣持寺地区）では、支川に家屋が連っており、大和川の水位上昇に伴い支川の樋門を閉鎖することで内水が発生
- ▶ 平成25年、平成26年で連続して浸水被害が発生しており、平成26年には床下浸水が3戸発生。また、H29年10月の台風21号では、床上11戸、床下14戸の浸水被害が発生

【施設の概要】

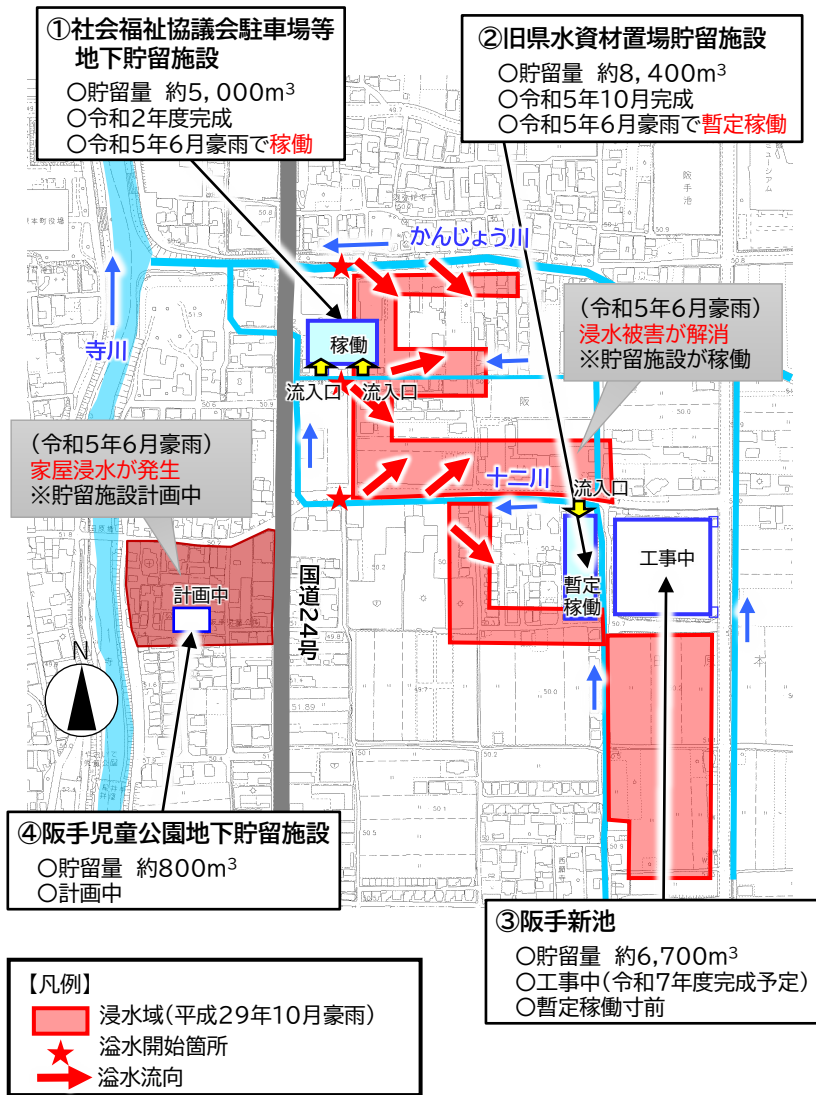


施工状況



田原本町の取り組み(阪手地区)

▶ 令和5年6月豪雨では内水被害が解消!



周辺住民の声(6月2日降雨の後/田原本町による聞き取り)

ひとまず、浸水被害がなくてよかった。大雨の中、貯留施設が動いているのか気になり、数回見に行った。今回の雨で、貯留施設の整備の効果が実感できた。整備していただいたことに感謝。

水路のぎりぎりまで水位が上がり、やはり不安を感じた。今回、溢れなかったのは貯留施設の整備の効果だとは思うが、劇的に安心感が増したわけではない。今後も水害対策を頑張してほしい。

社会福祉協議会駐車場等雨水貯留施設

令和3年3月完成

▶ 施設の公開等を通じて流域治水を自分事化

- 田原本町では、流域治水の先進地として、地下貯留施設の完成後、地元の小学生などへの施設公開や多くの自治体の視察受入など、流域治水への意識向上に尽力
- また、施設の完成後も、流入口の改良を行うなど、町の職員自らが貯留効果を高めるための検証や創意工夫を継続的に実施

(田原本町コメント)

流域治水の取り組みは、自治体間の格差が大きくなるなどの課題が浮彫りとなっていることから、流域のあらゆる関係者が協力して水害対策に取り組んでいけるように、引き続き、協議会での発信や現場視察会を通じた働きかけを積極的に展開していきます

【施設の公開】



施設見学後に寄せられたコメント

- 小学生(地元小学校の生徒)**
 大雨が降ったときに自動で機械が動くことと、たくさんの工夫がされていることがすごかったです。水害が少なくなってほしいと思います。
- 小学生(地元小学校の生徒)**
 私が一番心に残っていることは、滝のように水が流れてきたことです。想像以上に迫力があり、びっくりしました。とても勉強になり、面白かったです!
- 職員(他府県の職員)**
 町で積極的に内水対策を行い、さらに施設公開や効果検証などの取組はとても参考になった。このような取組が広がるよう本県でも取り組んでいきたい。

社会を支える土木施設であるインフラを観光資源として活用するインフラ体験ツアーを開催(国、大阪府、田原本町)

地下のヒミツ 大人のインフラ探検ツアー

開催日: 12月4日

旅行代金: 2,000円

募集人数: 最大10名

お問合せ先: 11月24日

若江立坑

【施設の治水効果を高めるための不断の取り組み】



田原本町では、施設の稼働状況の確認や治水効果の検証が行われています。

町の職員が水位計の数値や現場の状況確認を行った結果、内水の流入が想定よりも早くなっていたことが分かり、内水の流入口の嵩上げなどが直ちに実施されました。

3-5. 奈良県平成緊急内水対策事業の推進に向けた支援

- 令和3年12月に特定都市河川の指定されたことから、雨水貯留施設を整備する場合の国の補助率が1/3から1/2へと嵩上げされるとともに、用地費も補助対象
- 奈良県では、市町が行う奈良県平成緊急内水対策事業の推進を図るため、技術支援と財政支援を実施

技術支援

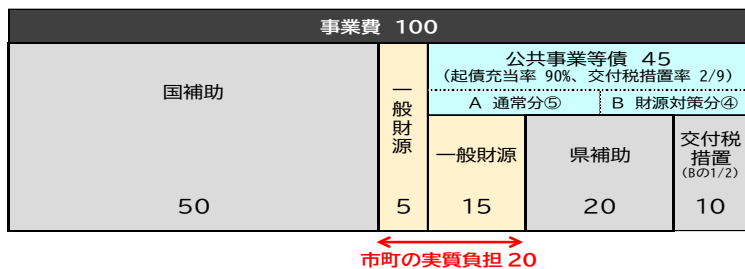
- ◆ 貯留対策等の事業を進める意向がある場合、希望する市町に対し、奈良県が効果検証などの技術支援を実施
- ◆ 土木技術者が不足するなど技術支援を希望する市町に対して、奈良県が詳細設計や工事発注、現場監督を受託（奈良モデル(県と市町村との連携・協働)を実施)

財政支援

- ◆ 事業主体である市町に対し、総事業費から国費と交付税措置額を除いた、市町の実質負担額の2分の1を奈良県が独自に補助(奈良県と市町の実質負担額が1:1になるように財政支援を実施)
- ◆ これらにより、市町が奈良県平成緊急内水対策事業を実施する場合、市町の実質負担額は、**全体事業費の20%**に抑えることが可能(公共事業等債を活用した場合)
- ◆ さらに、**国の補正予算を活用した場合**、市町の実質負担額は**全体事業費の12.5%**に抑えることが可能(補正債を活用した場合)

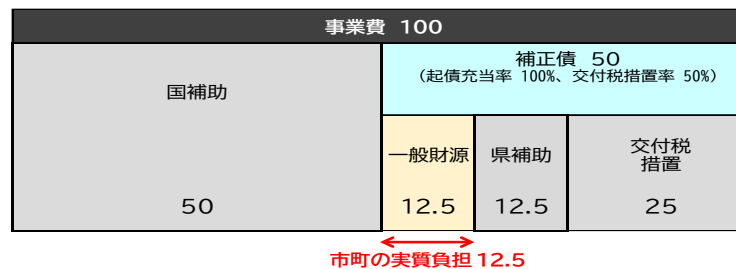
◎国の通常予算を活用して事業を実施した場合（公共事業等債）

⇒市町の実質負担額は、**20%**

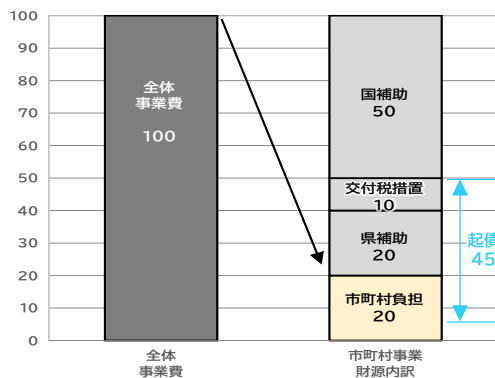


◎国の補正予算を活用して事業を実施した場合（補正債）

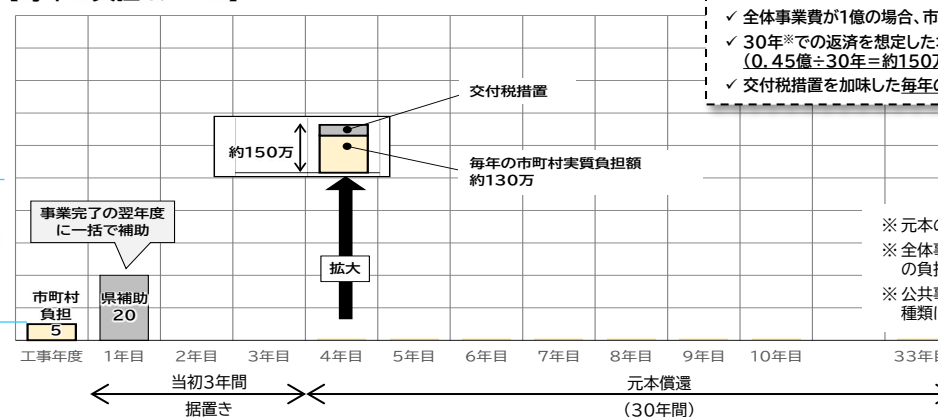
⇒市町の実質負担額は、**12.5%**



【事業費負担イメージ】



【毎年の負担イメージ】



✓ 全体事業費が1億の場合、市町村実質負担額は0.2億円 (1億×20%=0.2億)
 ✓ 30年*での返済を想定した場合、元本償還(1億×45%=0.45億)の年間負担額は約150万 (0.45億÷30年=約150万/年)
 ✓ 交付税措置を加味した毎年の市町村実質負担額は約130万(別途、県から2,000万円の補助)

※ 元本の償還イメージであり、利子は含んでいません。
 ※ 全体事業を1年間で実施した場合の返済イメージであり、実際の年度毎の負担とは異なります。
 ※ 公共事業等債を活用した場合のシミュレーションであり、活用する起債の種類により、返済期間や実質負担額は異なります。